

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
売上高	154,302	169,501	15,199	9.9
営業利益	5,744	15,364	9,619	167.5
経常利益	5,867	15,475	9,608	163.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	964	24,251	23,287	—
	円	円	円	%
1株当たり四半期純利益	4.11	103.47	99.35	—

遊技機業界におきましては、パチスロ遊技機市場において、遊技機の型式試験を執り行う一般財団法人保安通信協会（略称:保通協）における型式試験方法の運用変更に対応した機種への入れ替えに対して、パチンコホール運営者が慎重な見方を示しております。また、パチンコ遊技機市場におきましては、日本遊技機工業組合（略称:日工組）にて決定された『のめり込み』対策に係る新たな申合せが適用されたこと等に伴い、依然として不透明な状況が続いております。そのような状況の中、一部の実績あるシリーズ機を中心に高い評価を受けるタイトルが登場してきており、今後の市場活性化に向けては、各種自主規制等に適応した、幅広いエンドユーザーに支持される機械の開発、供給等が求められております。

エンタテインメントコンテンツ事業を取り巻く環境につきましては、スマートデバイス向けなどのデジタルゲーム市場において、国内におけるスマートフォン普及の鈍化、及び有力パブリッシャーの優位性が増していることから、より品質の高いコンテンツの供給が求められており、開発期間の長期化や運営費用が増加傾向にあります。一方、海外におきましては、アジアを中心に今後の成長が期待されております。パッケージゲーム市場におきましては、家庭用ゲーム機の新世代ハードの普及による今後の市場拡大に期待が高まっているほか、欧米及びアジアでは、PC向けゲームが大きな市場を形成しております。アミューズメント施設・機器市場につきましては、新作ビデオゲームを中心に、施設稼働の向上やユーザー層拡大の兆しが表れております。

リゾート業界におきましては、訪日外国人数の伸び率は鈍化しているものの増加継続しており、ホテルの客室稼働率は引き続き上昇傾向にあります。また、観光立国の実現に向けて、『特定複合観光施設区域の整備の推進に関する法律案（IR推進法案）』が国会に提出されております。

このような経営環境のもと、当第2四半期連結累計期間における売上高は1,695億1百万円（前年同期比9.9%増）、営業利益は153億64百万円（前年同期比167.5%増）、経常利益は154億75百万円（前年同期比163.8%増）となりました。また、固定資産売却益など特別利益119億94百万円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は242億51百万円（前年同期は純利益9億64百万円）となりました。

セグメント別の概況は以下のとおりであります。

なお、文中の各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高を含んでおりません。

また、当グループの報告セグメントとして従来「エンタテインメントコンテンツ事業」に含まれていた一部事業について、第1四半期連結会計期間より「遊技機事業」に変更しており、当第2四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後のセグメント区分に基づいております。セグメント情報に関する詳細は、12ページ「3. 四半期連結財務諸表（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

《遊技機事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	60,911	64,926	4,014	6.6
セグメント間売上高	337	262	—	—
売上高合計	61,249	65,189	3,939	6.4
営業利益	8,452	10,639	2,186	25.9

パチスロ遊技機におきましては、当第2四半期において、主力タイトル『パチスロ北斗の拳 修羅の国篇』の納品は一部にとどまったものの、独自のゲーム性が支持された前作に新たな要素を多数加えた『パチスロBLOOD+ 二人の女王』等の販売が好調に推移し、前年同期実績を上回る81千台の販売となりました（前年同期比11千台増）。パチンコ遊技機におきましては、過去シリーズから一新した液晶演出に新規搭載のギミックを融合させた『ぱちんこCR蒼天の拳天帰』の販売が好調に推移したことや、わかりやすいゲーム性に新たな遊び方をプラスしたドラマ演出が魅力の『ガオガオキング』シリーズの最新作『ぱちんこCRガオガオキング2』シリーズ等の販売が堅調に推移したことから、前年同期並みとなる75千台の販売となりました（前年同期比4千台減）。

また、部材リユース等による原価改善や、開発費等の費用低減により収益性の改善に取り組んでおります。

以上の結果、売上高は649億26百万円（前年同期比6.6%増）、営業利益は106億39百万円（前年同期比25.9%増）となりました。

《エンタテインメントコンテンツ事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	85,967	97,829	11,861	13.8
セグメント間売上高	506	463	—	—
売上高合計	86,474	98,292	11,818	13.7
営業利益	1,703	9,143	7,440	436.8

エンタテインメントコンテンツ事業においては、デジタルゲーム分野において、配信から4周年を迎え、国内450万IDを突破した『ファンタシースターオンライン2』が引き続き好調を維持しております。スマートデバイス向けタイトルにつきましては、9月より正式スタートしたユーザー同士で競い合うリアルタイム対戦が好調の『ぶよぶよ!!クエスト』、各種イベント等の開催を実施した『チェインクロニクル ～絆の新大陸～』や『オルタンシア・サーガ -蒼の騎士団-』など既存主力タイトルを中心に堅調に推移いたしました。また、新作タイトルとしてチェインシナリオRPG『ワールドチェイン』を9月にリリースいたしました。

パッケージゲーム分野におきましては、9月発売の『ペルソナ』シリーズ最新作『ペルソナ5』等の主力タイトルの販売が好調に推移しており、販売本数は前年同期を上回る465万本となりました。

アミューズメント機器分野におきましては、引き続き『艦これアーケード』の稼働が好調に推移しており、レベニューシェアモデルによる収益貢献や、16年目の進化を遂げた競馬メダルゲーム『StarHorse』シリーズのCVTキット『StarHorse3 Season VEXCEED THE LIMIT』の販売が堅調に推移いたしました。

アミューズメント施設分野におきましては、既存のゲームセンター業態におけるプライズなどの運営強化や、『艦これアーケード』等のビデオゲームを中心に稼働が好調なことから、国内既存店舗の売上高は前年同期比で110.8%と好調に推移いたしました。

映像・玩具分野におきましては、劇場版『名探偵コナン 純黒の悪夢 (ナイトメア)』の配給収入を計上したほか、玩具につきましては定番・主力製品等を中心に販売いたしました。

以上の結果、売上高は978億29百万円（前年同期比13.8%増）、営業利益は91億43百万円（前年同期比436.8%増）となりました。

《リゾート事業》

	前年同期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間	前年同期比	
			増減	増減率
	百万円	百万円	百万円	%
外部売上高	7,422	6,745	△677	△9.1
セグメント間売上高	18	27	—	—
売上高合計	7,441	6,773	△668	△9.0
営業利益	△1,218	△1,312	△93	—

リゾート事業におきましては、国内有数のリゾート『フェニックス・シーガイア・リゾート』において8月にシェラトン・グランデ・オーシャンリゾートの客室改装やパブリックスペースを中心とした宿泊者専用の『風待ちテラス』や『実家くろぎ』の新設等を実施し『新しいシーガイア』としてリニューアルオープンしたほか、夏休みイベントにおいては、週末に打ち上げ花火やナイトマーケットの開催をはじめ、『ウミガメの生態を学ぶツアー』『おもてなし体験（こども職業体験）』等の集客施策を実施いたしました。また、平成28年熊本地震の影響により、一部キャンセルが出ていた宿泊等の予約改善に引き続き取り組んでおります。

大自然超体感ミュージアム『オービィ横浜』では、料金体系の見直し及び『アニマルスタジオ』等の集客施策を実施し利用客数は増加しましたが、施設稼働は低調に推移いたしました。一方で、屋内型テーマパーク『東京ジョイポリス』におきましては、7月に導入した『ZERO LATENCY VR』をはじめ複数の新作アトラクション等が好評を博し、施設稼働は堅調に推移いたしました。

また、海外におきましては、韓国における代表的観光企業であるParadise Co., Ltd. と当社の合弁会社であるPARADISE SEGASAMMY Co., Ltd.（当社持分法適用関連会社）が、韓国・仁川において、既存のカジノ施設の運営に取り組んでおります。

以上の結果、売上高は67億45百万円（前年同期比9.1%減）、営業損失は13億12百万円（前年同期は営業損失12億18百万円）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年5月13日に公表した通期連結業績予想を修正いたしました。詳細については、平成28年11月2日公表の「通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(修正再表示)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準委員会 平成28年3月28日 企業会計基準適用指針第26号)を第1四半期連結会計期間から適用しております。